

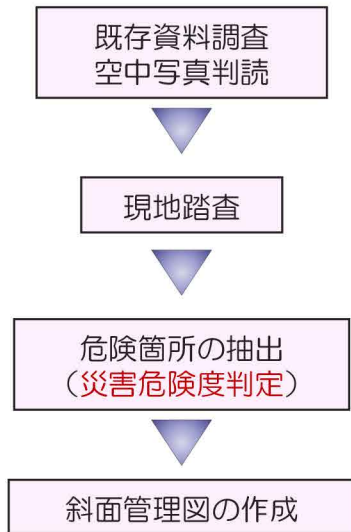
踏査と写真判読により災害形態と危険度を評価

鉄道や道路の沿線斜面では落石・崩壊などの災害が発生することがあります。鉄道総研では現地踏査と空中写真判読から想定される災害とその危険性の程度を評価し、それらの結果を斜面管理図としてまとめる作業を実施しています。また、必要に応じて想定被害への対応方法の提案を行います。

【特徴】

- 地形地質などの素因から、発生する可能性のある災害形態を予測します。
- 現地踏査に基づき、維持管理標準に則った災害発生危険度評価をします。
- 全般検査や個別検査時の着眼点について提案します。
- 作成する斜面管理図を斜面管理の基図として役立てることができます。
- 数年毎に斜面管理図を更新することにより、斜面の経年変化が把握できます。

調査・評価の流れ



現地踏査



素因に着目した 斜面管理図

項目	内容
斜面管理図 No.130	種名: 区間: ~ 牛口標: ~ 延長: m 調査日: 年 月 日
点検概要	①斜面上方の沼地と線路までの湧水、溜り状況の確認 ②土溜りの湧水、堆積状況の確認 ③のり面の転石の安定性の確認 ④のり面の低下、やせ状況の確認
検査時の着眼点	変状に対する判定 (有/無) 健全度判定 (A/A) (B/B) 変状コメント (のり面の低下・やせ 溜り方向C面にて低下・やせがみられている。)
不安定性に対する判定	不安定性 (A/B/C/S) コメント (溜り方向C面にて低下・やせがみられている。溜り方向C面にて湧水の可能性がある。)
想定される被災形態	形態 発生部位 コメント 土砂流入 OO/OO-村道右側 落石 OO/OO-村道右側

③のり面の転石の安定性の確認

着眼点を記した
斜面管理マップ

調査・評価の流れと斜面管理図